

20019

冠動脈CT時の酸素投与による心拍数変化と吸気・呼気使い分けによる息止め成功の考察

【目的】CT装置は年々進化し高速撮影が可能となってきたが、冠動脈CT撮影時の高心拍症例や息止め不完全症例ではまだまだ画質の劣化がある。そのため、撮影時は出来るだけ心拍数を下げ、呼吸は完全に止めてもらう必要がある。日常業務で酸素投与により心拍が下がる症例を目の当たりにすることや、通常吸気停止で撮影を行なうところを、呼気停止により息止め練習をすることで体動を抑制する経験をする。そこで、当院の酸素投与による心拍変化と、息止めの使い分けによる撮影成功率を報告する。【方法】不整脈症例を除外した連続200症例において、ランダムに酸素投与の有無を決め、心拍数の変化を統計解析した。また、意思疎通が不可能な症例を除外した300症例において撮影前の息止め練習において吸気の停止が不可能な症例において、呼気止めによる練習をして撮影に望んだものを含めた当院の息止め不良による撮影失敗率を求めた。【結果】酸素投与により有意に心拍数低下を認めた。また、当院の吸気、呼気の併用による息止め成功率は97%であった。【考察】冠動脈CT撮影時の心拍数低下に酸素投与は有効である。また、息止め不良症例を少なくするためには、吸気、呼気の併用撮影が有効である。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号